

令和3

年度 学校法人日章学園 奄美看護福祉専門学校 学校関係者評価

令和4年6月29日実施

3段階評価 A:達成 B:一定の成果あり C:不十分

自己評価(総合)

B

学校関係者評価

A

教育の方針	3段階自己評価	自己評価	3段階外部評価	学校関係者(外部委員)からの意見・提言
努力目標				
1 建学の精神に基づき知識・技術・態度を身につけ優れた実践者としての判断力・応用力問題解決力が行使できる人材を育成する。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝の職員朝礼、ホームルームでの唱和により、日々、建学の精神に立ち返り教育活動を実施することができた。学園スローガンの唱和についても、日々の自身の思考の鍛錬の場となっている。 ・朝のHRや学校行事、学内演習、臨地(学内)実習、授業等あらゆる機会や場面を通し「建学の精神」を基盤とした教育に取り組んだ。学生一人一人の状況や到達度に応じた指導を行い、学科会等において情報共有を行い、細やかな指導ができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の力に合わせた指導を行い、実習やカリキュラムを通して人材育成に尽力した。 ・学生に期待することとしては、学校の先輩として社会人の先輩として”島”ならびに故郷での大切な人材(人財)であるため、技術はもとより、”心”(思いやり)を育む時間としてとらえてほしい。看護・福祉の世界は、病気や障がい、虐待というハンディをおい、気持ちがすさみがちである。そのような中で、健全な気持ちを持ち続けることは難しいと思えるが、学生時代に経験をすることで0(ゼロ)からのスタートではない。 ・「建学の精神」を教育活動に取り入れながら学生一人一人の到達度に応じた指導が行われていることが窺えました。大変ですが粘り強く継続していただければと思います。 ・学生に対し、問題解決能力が行使できる人材の育成を目標とし、とても難しい目標だと考えます。社会に出ても問題解決能力が乏しい社会人が多く、学校で決められた一つ一つのルールへの順守の徹底と、学生の期間に与えられた貴重な時間を有意義に過ごすことが出来ることに期待します。学生が自ら積極的に課題を見つけて取り組むことができるよう温かく傍でご指導くださいますようお願いいたします。(実習態度は良好)
2 全学生の資格取得達成のため、授業評価を用いた授業改善、教材研究、研修に努める。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価を行い授業改善に努めた。 ・感染の影響で登校できない学生に対してもオンラインで授業に参加し学習できるように対応できた。 ・資格取得達成のため資格を持つ意義等も積極的 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウィルスの影響もあり、思うように取り組めないところもあったと思うが、学生が資格を取得するために努力をしていることを感じた。 ・コロナ禍の中での実習先の確保に苦慮されている様子。今後、後輩の育成の観点から、医療福祉の現場でも、

		<p>に伝えることに努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度からスタートした新カリキュラムに向けてリモートでの研修会の参加や本校においての検討会を開催した。 ・学外研修はコロナ禍のため対面での研修会の機会が少なかったが、リモートの研修会に参加し担当分野の授業、実習での指導の充実を図ることができた。 	<p>感染予防を徹底したうえで受け入れの緩和を図れたら…。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で、学生の感染状況を把握しながら授業を進めていくのは大変なご苦労があったと思います。オンライン形式は、学生の学びをサポートし授業の充実を図ることができると思います。 ・資格取得においては、学生本人の資質にも問題があると思いますが、学校側が学生として受け入れた時点で、学校にも責任が課せられると思います。どのように資格取得について寄り添うことができるのか、全員合格するためには、何が必要なのか諦めずに取り組んでいただきたいと思います。 	
<p>3 全教職員が一丸となって教育相談を積極的に行い、学生一人ひとりの理解に努める。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学生一人一人の問題について運営委員、学科会議を通して情報を共有し、問題解決に努めた。また、スクールカウンセラーを活用し、学生の心のケアが行えた。 ・学生の抱えている問題について、共通理解し、真摯に向きあうことに努めた。 ・保護者との連携には特に注意し、積極的に努めた。 ・コロナ感染予防対策等の業務や学内実習により多忙になり自己研究などの時間確保ができず、教員自身の自己研究遂行意識を高めることと、時間の確保が課題である。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・個性の特性があり、個別の対応をしている努力が見られた。 ・業務負担のある中、一人一人への配慮も行い、理解を深めることは難しい面もあると思いますが昨年、提案したように、半年に1回程度でもOB/OGと話をする機会を設けてみる。(同窓会でも検討) ・保護者との連携や学校カウンセラーの活用など学生の心のケアに努められていると思います。コロナ感染予防対策の業務や学内実習の多忙な中、時間管理が課題とされています。これからも継続的な取り組みを期待します。 ・近年の学生は、以前と比較して複雑な問題を抱えている学生が増加していることをお聞きしました。精神的な面をはじめ多くの関わりが必要な学生が増加しているようですが、人数的には以前も存在したかもしれませんが、割合が増えているような気がします。教職員の皆さまが関わりかたを工夫されていることを理解します。今後もこれまでと同様にかかわってくださいますようお願いいたします。
<p>4 教員自ら率先垂範し、地域ボランティア活動等への積極的な参加を通して地域に愛される学校づくりに努める。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度のボランティアは8件、参加述べ数145名であった。地区の清掃活動や小学校の運動会、プール掃除、通学路の美化活動など地域に根ざした活動を積極的に行えた。 ・学校行事の小湊敬老感謝の集いや大島養護学校とのクリスマス交流会は昨年に引き続きメッセージカードや記念品のプレゼント、オンラインでの交流などコロナ禍をふまえた工夫を行い実施できたことで地域との交流が図れた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウィルスの影響があり、思うような地域への働きかけや、いろいろな行事への参加が難しい中、やれる事は取り組んでいる。 ・ホームページやインスタグラムの活用で、学校や学生の動きがダイレクトに分かった。 ・卒業生の活躍が目覚ましい。 ・小湊地区では、敬老感謝の集いなどを通し交流することで地域づくりにも貢献できていると思います。 ・コロナ禍においてできることを模索して、ボランティ

		<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍により、ボランティア活動の実施は少なかったが、時には学生と一緒に活動を実施した。また、小湊小で実施される毎週火曜日の絵本の読み聞かせには学生と一緒に参加し、交流の場面を観察した。 	<p>ア経験を多く積み重ねることを期待します。</p>
5 入学時からの進路啓発、進路面談を通して専門職に対する資格意識の高揚を図り、就職100%に努める。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・進路相談や就職試験の面接や出願時の指導を行い、個人面談を行い、就職率100%を達成することができました。進路ガイダンスを開催し、県内、県外の施設を理解し、進路決定に繋がった。 ・1年時から進路ガイダンス等を実施し、進路啓発に努めた。3年生はハローワークの職員に来ていただき、ジョブカードの作成やハローワークでの面談も実施した。 ・看護学科では、国家試験合格に向けて、1年次から少人数のゼミ制を実施するなど学習へのサポートを行った。就職率は100%であったが、国家試験合格率は介護福祉士は全国平均を上まわっていた。看護学科は全国平均を下回ってしまったので、合格率100%を目指していきたい。 	A <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の進路や就職への努力は、1年生の時から意識を高める指導をしていることが窺えた。 ・こども・かいご福祉学科は、コース別の学科の検討もよいかもしれませんね。 ・1年次から進路ガイダンスを開催し、就職率100%を達成されたのは大変素晴らしいことだと思います。卒業生は、即戦力としての期待も高く重要なことだと考えます。 ・看護学科の国家試験に向けて個別指導、ゼミ制の取り組みなど粘り強い努力が窺えました。 ・就職率100%達成について、今後も継続して達成できることを願います。但し、国家資格の合格率が100%とならなかったのは残念ですが、今後の課題としてお取り組みくださいますようお願いいたします。
6 教育事務所、地元関係各機関との連携強化に努める。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・奄美市新成人のつどいでの学生実行委員の活躍が見られた。 ・小湊町内会との連携を密に行い、清掃活動、敬老お祝い品配布、地区のフィールドワーク学習などの協力が得られた。 ・恒例となっている子育て応援団の実施はコロナ禍により、中止となった。 ・毎年「介護の日」にちなんで行っているクリーンキャンペーンを実施し、多くの施設で好評を得ることができた。その際、地元の新聞社が取材に来ていただき、新聞にも掲載していただいた。 	A <ul style="list-style-type: none"> ・病院や福祉施設への連携を図り、学校への協力体制を強化しており、評価できた。 ・島の医療(看護)・福祉)の資質向上を含め、島独自で教育委員会、医師会、保育の分野で協力体制を構築できないか? ・コロナ禍においての地域との連携は大変であったと考えます。また、これまで実施してきたことに加えて新たなイベントへの取り組みを期待します。
7 全職員の協力による学生募集の推進	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集を全教職員が意識し募集に努めた。 ・体験入学を8回行い学生募集に努め、ガイダンスや出前講座にも参加し学生募集に全職員で努めた。・企画広報委員の意見を取り入れ、SNSの発信に力を入れ、前年度より学生募集の結果を伸ばすことができた。しかし、定員確保までは至っていない状況である。 	A <ul style="list-style-type: none"> ・学生募集が一番の課題ではあったが、毎年のように分析や研究を行った結果が、今年の募集に繋がったと考えられる。 ・体験入学者は高校生が多いため、SNSや新聞より、友人、先輩、知人で大半を占めている。 ・学校の情報は、SNSが有効。 ・学校の体験入学、学生募集ガイダンス、出前講座など

・学科としては、自己推薦入試出願者を入れたことは、結果につながったといえる。、島内 22 名、他 19 名が入学した。
また、島内、県外の高校訪問や中学生の職場体験や体験入学（オンライン含む）の実施やガイダンスに参加し、広報活動を行った。

精力的な活動が学生募集に繋がっていると思います。
・体験入学は、奄美ならではの良さも経験でき、他校との差別化になっているのではないのでしょうか。
・こども・かいご福祉学科が前年対比 200 %を超える入学生がありましたことは喜ばしいことですが、今後少子化の波はさらに厳しくなると考えます。今年だけとはならないよう、次年度の入学者が増加することを願います。